# 平成１８年度

独立行政法人国立博物館

# 九州国立博物館

# 実績報告書

# 目次

Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置
1. 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承・1
(1)-1 適時適切な収集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
(1)-2 寄贈・寄託の受入れ及びその積極的活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
(2)-1 収蔵品の管理・保存・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
(2)-2 保存環境の調査研究の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
(3)-1 収蔵品の修理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
(3)-2 科学的な技術を取り入れた修理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
(4) 収集・保管のための調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

2. 文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信・・・・・・・・・・・・・ 12
(1) 展示の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
① 平常展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
② 特別展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
・「うるま ちゅら島 琉球」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
・「南の貝のものがたり」、「発掘された日本列島2006」 ・・・・・・・・・・・・16
・「海の神々ーささげられた宝物ー」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
・「プライスコレクション 若冲と江戸絵画」・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
③ 展覧会広報活動の取組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
(2) 情報発信機能の強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
① ウェブサイト等による情報の発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
②-1 デジタル化の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
②-2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化・・・・・・・・・・・・・・・・22
(3) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
① 学習機会の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
②-1 ボランティア活動の支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
②-2 博物館支援者の増加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
(4) 調査研究成果の反映・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
(5) 快適な観覧環境の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
① 観覧環境の整備プログラム等の策定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
② 一般来館者の満足度調査及び専門家の批判聴取・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実・・・・・・・・・・・・・・・30

3. 我が国におけるナショナルセンターとしての機能の強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
(1) 調査研究の成果の発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31
(2) 海外研究者の招聘・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
(3) 保存修理者への研修プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
(4) 収蔵品の貸与・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

Ⅱ 業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

# Ⅰ．国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

## 1. 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

### (1)-1　適時適切な収集

**○方　　針**

我が国とアジアを中心とする諸外国との文化交流のありさまを示す文化交流展示の内容をより分かりやすく示す資料（美術・考古・歴史・民族など）を、重点的に収集する。

**実　　績**　購入件数：26件（絵画2件、書跡1件、陶磁1件、漆工21件、染織1件）
決算額：4億425万円

作品名と概要は下記のとおり。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 絵画 | 日月図軍扇　足利尊氏花押 | 南北朝時代・14世紀 | 表面には金箔の太陽、裏面には銀箔の月を表す扇。足利尊氏が、観応二年（1351）に河内国人土屋宗直に下賜したとされる。 |
| | 寿老図 | 中国・明時代・15世紀 | 重要美術品「梅花寿老図」（雪舟筆・東博蔵）などにかかわるわが国の寿老信仰や絵画表現を理解するのに重要かつ稀少な同時代中国絵画資料。 |
| 書跡 | 王逸墨跡 | 中国・清時代・康熙36年（1697） | 福建省の書家王逸が、琉球王国の都通事梁鏞の帰国にあたり与えた墨跡。 |
| 陶磁 | ◎白釉経筒 | 中国・南宋時代・12世紀 | 我が国の注文によって中国華南地方の窯で焼かれ、福岡県四王寺山の経塚に埋納されていた経筒。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 漆工 | 宝相華螺鈿卓 | 室町時代・15世紀 | 我が国の伝統的な漆工品の典型作。 |
| | 朱漆湯桶 | 江戸時代・17世紀 | |
| | 楼閣人物螺鈿十二稜大食籠 | 中国・元時代・14世紀 | 室町時代の座敷飾を再現するのに不可欠な中国製の漆工品類。<br> <br>楼閣山水人物螺鈿食籠 |
| | 孔雀牡丹螺鈿軸盆 | | |
| | 花鳥堆朱盆 | | |
| | 山水樹下牽牛人物図螺鈿硯箱 | 中国・明時代・15世紀 | |
| | 楼閣山水人物螺鈿食籠 | | |
| | 船中饗宴図螺鈿方盆 | | |
| | 双龍存星軸盆 | 中国・明時代・1595年 | |
| | 梅月螺鈿軸盆 | 中国・明時代・16世紀 | |
| | 鳥獣草花箔絵櫃 | ミャンマー・19世紀 | ミャンマーの漆工品であり、箔絵技法の特徴をよく示す作品。 |
| | 牡丹尾長鳥漆絵櫃 | | |
| | 葡萄唐草螺鈿十字架 | ベトナム・19世紀 | 硬木に緻密な螺鈿を嵌装する螺鈿による十字架。ベトナム製輸出漆器。 |
| | 花鳥箔絵螺鈿盆 | インド・ムガル時代・16-17世紀 | 彫木に金箔をおす長方形の盆。日本の蒔絵を模倣したインド製輸出用漆器。 |
| | 紋章蒔絵飾皿 | 江戸時代・18世紀 | フランスノルマンディー地方のバシュリエ家の紋章とみられる文様を持つ輸出用漆器。江戸時代の我が国とヨーロッパとの交流の様相を示す典型的な作品で、縁に日本の風景を描く。 |
| | 鳥獣草花箔絵面盆 | 琉球・第二尚氏時代・世紀 | 典型的な琉球漆器。 |
| | 花鳥沈金足付盤 | | |
| | 龍螺鈿盆 | 琉球・第二尚氏時代・18世紀 | |
| | 鳳凰螺鈿七弦琴 | 琉球・第二尚氏時代・17世紀 | 現存唯一の貴重な琉球漆器。 |
| | 牡丹唐草螺鈿箱 | 朝鮮王朝時代・18世紀 | 螺鈿と漆絵技法によるもので、朝鮮漆芸の理解に役立つ貴重な作品。 |
| | 花鳥漆絵櫃 | 朝鮮王朝時代・19世紀 | |
| 染織 | 刺繍矢筒袋 | イラン・ササン朝ペルシャ・６世紀 | 連珠文・猪頭文・三日月や珠などペルシャ系の装飾文様を鎖縫刺繍で表した矢筒袋。保存状態が極めて良好。 |

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

特に室町時代に好まれた唐物趣味を再現する座敷飾の展示に不可欠な中国漆器を中心に、琉球や東南アジアの漆器についても購入することができた。我が国の伝統的な漆器に加え、江戸時代の輸出用漆器の佳品についても購入できた点が特記できる。

**【見直し又は改善を要する点】**

・館自体の収蔵品が少ないため、特に「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」という当館の展示理念に合致する作品の収集を重点的に図り、継続的なコレクションの充実に努める必要がある。

平成１８年度新収品（事業実績統計表Ｐ１、３８～４６）

## (1)-2　寄贈・寄託の受入れ及びその積極的活用

**○方　　針**

「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」という当館の文化交流展示の内容を充実させるために、積極的に寄贈及び寄託を受け入れる。

**○実　　績**

寄　贈　6件（書跡　1件、彫刻　1件、刀剣　1件、陶磁　1件、民族資料　2件）
百万塔および陀羅尼経　世界最古の印刷物とされる経文および木製容器
金子量重アジア民族造形コレクション　楽器ほか494件の追加寄贈
今井政之作　大皿　象嵌彩窯変　双蟹
松﨑尚子作　朝鮮通信使行列人形
厨子甕
紺糸威胴丸具足（伝黒田家家老小河家伝来）

百万塔

編　入　11件（漆工　1件、考古　4件、民族資料　1件、歴史資料　5件）
文化交流展示用に作成した復元文化財・レプリカを列品に編入したもの
寄　託　1,506件（うち重要文化財2件）（目標　350件）

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

・追加寄贈により、当館の金子量重氏アジア民族造形コレクションが一層充実した。百万塔および陀羅尼経、胴丸具足や厨子甕など、当館に欠けていた分野の作品が補充された。
・東南アジアの特色あるコレクションの寄託を受けることができたため、文化交流展示を充実させることができた。
・寄贈者への褒章申請や顕彰等を積極的に行い、目標を上回る寄贈数を達成できた。

**【見直し又は改善を要する点】**

館自体の収蔵品が少ないため、特に「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」という当館の展示理念に合致する作品の寄託を重点的に図り、継続的な充実に努める必要がある。

平成１８年度新収品（事業実績統計表Ｐ１、３８～４６）
寄託品（事業実績統計表Ｐ４８～４９）

## (2)-1　収蔵品の管理・保存

**○方　　針**

収蔵品を適切な環境で管理・保存に努めるとともに、文化財の保存・活用のための環境整備を図る。

**○実　　績**

1）ＩＰＭ（総合的有害生物管理）活動

・収蔵庫・展示室等文化財エリアを中心に、250 ヵ所に粘着トラップを設置して定期的なモニタリングを実施した。

・モニタリングの結果から、害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を把握した。

・情報システムと連動して害虫発見箇所の資料化を実施した。

・館内への文化財の持ち込みに際し、低酸素濃度法と二酸化炭素法による殺虫処理を 7 回実施した。

・ボランティア活動との連携によって、文化財エリアの有害生物監視及び清浄度維持の体制を整えた。

・来館者多数に伴う塵埃による露出展示作品への影響を回避するため及び収蔵庫内の清浄度維持のために特化した業務委託体制を整えた。

2）展示・収蔵環境データの蓄積・解析

温湿度　① 収蔵庫　温度　24℃±1℃（夏期）22℃±1℃（冬期）、湿度　材質別に　50%±2%、55%±2%、60%±2%

② 特別展示室・文化交流展示室　温度　26℃±1℃（夏期）　22℃±1℃（冬期）、湿度　55%±5%

注）特別展は、展示によって設定は異なる。

展示室・収蔵庫を中心に 65 箇所の温湿度データ集積システムを構築して運用をした。

照明　　館内の紫外線強度を測定して紫外線防止フィルターを設置した。

空気汚染　展示・収蔵庫系統は、プレフィルター・ケミカルフィルター・エアワッシャー等を用いて汚染物質の軽減に努めた。ビル管理法に基づく測定（温度、湿度、$CO^2$、騒音、風速、塵埃）を半月ごとに実施した。

防災　　不活性ガス窒素消火設備、火災自動報知器等の点検及び総合防火訓練を実施した。

防犯　　入退室管理設備、赤外線人感センサー、防犯カメラ（24 時間監視）

3）博物館科学諸室の運用

・展示・収蔵資料を中心にＸ線ＣＴスキャナ等による文化財の保存状態把握と構造調査を開始した。

・保存科学室等において、調査・分析機器を用いて展示・収蔵資料を中心とした科学的調査を開始した。

・学芸調査室、研修・調査室等については、従来からの学芸的調査と分析機器を用いた科学的調査を総合的に行うに適した設備を施工し、職員及び特別観覧等による館蔵品、寄託品の調査、研究員研修など専門性の高い実地調査の研修に活用した。

・温湿度計、データーロガー、実体顕微鏡などＩＰＭ活動に必要な機材と適切な使用環境を整備し、職員及び環境ボランティアの実習・研修に活用した。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

1）ＩＰＭ（総合的有害生物管理）活動

ボランティア活動との連携や日常管理の一部業務委託によって、文化財エリアの有害生物監視及び清浄度維持体制を整えることができた。

2）展示・収蔵環境データの蓄積・解析

開館 2 年目を迎えて、館内汚染物質の軽減を図ることができた。

3）博物館科学諸室の運用

展示・収蔵資料を中心に文化財の保存状態把握を目的とした科学調査を開始した。

**【見直し又は改善を要する点】**

博物館科学諸室に整備した科学機器の試運転と運用を始めたが、さらに実用的な科学調査を進めたい。

各収蔵庫、展示場の温湿度（事業実績統計表Ｐ５１）

## (2)-2　保存環境の調査研究の実施

**○方　　針**

1）ＩＰＭ（総合的有害生物管理）導入により、文化財の生物被害防止を図る。

2)全館的視野にたった陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。

**○実　　績**

1）保存カルテ

・作成件数　　205 件（目標　200 件）

文化交流展展示の展示資料や修理資料及び寄贈資料を中心にＩＰＭ観点からのコンディションレポートを作成した。

2）館内の温湿度・空気質などの保存環境に関するデータを蓄積する。

・空気質の分析調査

収蔵庫・展示室を中心に館内の20箇所で酸・アルカリ等のガス成分について化学分析を実施した。前年度までの調査でガス濃度の高いことが判明した箇所については、空気循環の促進や外気の導入等の対策を講じることにより館内の空気環境は安定してきた。

・展示ケース内における温湿度変化

株式会社丹青社との共同研究として、密閉展示ケース内の調湿と循環ファンの効果について研究した。その結果、循環ファンの有効性について新知見を得ることができた。

・収蔵庫の空調停止時における温湿度変化

災害等の非常事態における保管状況を想定して、空調機器停止時の収蔵庫の温湿度変化について検討した。収蔵品が無い時期を利用して、一時収蔵庫を一週間停止して環境変化を測定した。その結果、空調機器停止中も収蔵庫の温湿度は極めて安定して推移した。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

災害等の非常事態で空調機器が停止する状況にあっても、収蔵庫は極めて安定した保管環境を維持することが判明した。

**【見直し又は改善を要する点】**

展示替えにおける湿度調整や演示台等から発生する水分・有害物質の除去について有効な対策を検討する必要がある。

保存カルテ作成件数（事業実績統計表Ｐ５２）

## (3)-1　収蔵品等の修理

**○方　　針**

1)平常展に陳列するために必要な文化財のうち、緊急性の高いものについて修理する。(10 件程度)
2)博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。
3)修理資料のデータベース化の調査を実施する。

**○実　　績**

1）修理

件数　10件（絵画　6件、刀剣　1件、歴史資料3件）　　（目標　10件）

2）保存修復諸室の運用

・保存修復施設1～3については、有限責任中間法人国宝修理装潢師連盟が使用し、重要文化財対馬藩宗家関係資料をはじめとする絵画、書跡、古文書等の館所蔵品の修理事業を実施した。当館経費以外では、重要文化財を含む5件8点の修理事業が実施された。

・保存修復施設4については、彫刻や大型工芸品などの修理が実施できる設備を施工し、必要な備品を備えた。すでに設置されていたターンテーブルや空調設備については、改良・増設を行い、より最適な環境を整えた。整備後は、財団法人美術院が使用し、九州沖縄地区の国指定重要文化財や県指定文化財を含む木像彫刻8件12点の修理事業が実施された。

保存修復施設１

保存修復施設２

保存修復施設３

保存修復施設４

・　文化財保存修復施設の周知を目的として冊子（紀要第2号別冊）を作成し、関係者に配布した。

・地域の大学と連携し保存修復諸室を活用し、国宝修理装潢師連盟の協力を得て短期インターン研修を実施した。

・地方公共の文化財関連機関専門職員の要請に応え、保存修復諸室の視察を積極的に受け入れ、地域の文化財保存修復に関する指導を行った。

3）データベース化に向けての調査

・修理資料のデータベース化のための基礎として、博物館科学・保存修復諸室に整備した機器類を用い、国宝修理装潢師連盟や美術院と協同で調査を行った。

・デジタル化した表具裂による仮想の取り合わせをさらに進めるために、表具裂のデジタル化をさらに進めた。また、屏風等についても仮想の取り合わせを実施し、適応範囲を広げた。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

・保存修復諸室は、十分な設備の施工を済ませ、有効に活用することができた。

・デジタル化した表具裂データを増やしたことで、より適切な裂の選定を的確に行うことができるようになった。

**【見直し又は改善を要する点】**

・多様な絵画や古文書に対応できるよう、より多くの表具裂のデジタル化を行う必要がある。

・地域の文化財関係者からの要請に応え、保存修復諸室を活用した実技指導研修を充実する必要がある。

修理件数表（事業実績統計表Ｐ５３）
修理概況（事業実績統計表Ｐ８７～９１）
文化財修理データのデータベース化（事業実績統計表Ｐ９２）

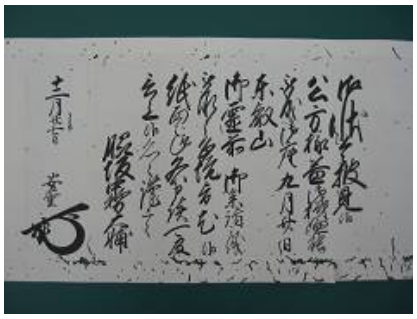
## (3)-2　科学的な技術を取り入れた修理

**○方　　針**

伝統的な修理技術とともに科学的な調査方法による成果や科学技術を取り入れた修理を実施する。

**○実　　績**

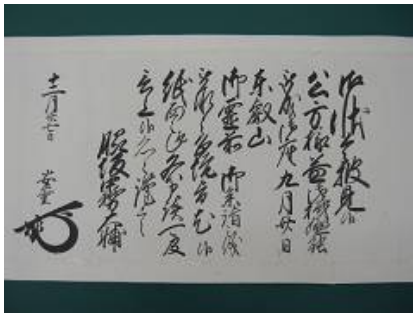
・重要文化財対馬宗家関係資料について本紙料紙の繊維同定を行い、補紙作りに反映させた。
・大量文書資料の補紙作りは、デジタル技術を用いた漉き嵌め法を採用し、本紙への負荷を軽減するとともに作業の効率化を図った。



①裏打ち紙を取除いた古文書

②虫穴を写し取った感熱シート

③感熱シートを使って漉いた補修紙



④作成した補修紙が嵌め込まれた古文書

・山水図や唐船・南蛮船図屏風で新調する表具裂についてデジタル技術を用いて仮想の取り合わせを行い、適切な裂の選択を行うことができた。
・唐船・南蛮船図屏風について彩色の蛍光Ｘ線分析を行い、適切な修復工程を選択することができた。
・金銅製飾沓及び冠について、19年度以降の保存処理、修理に向けてＸ線ＣＴスキャン及び精密三次元画像取込計測装置による調査を開始した。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

科学的調査の成果を作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てることができた。

**【見直し又は改善を要する点】**

今年度整備の分析機器類の機能を充分に発揮させた調査を実施し、伝統技法による修理に活かしていきたい。

## (4)　収集・保管のための調査研究

**○方　　針**

日本とアジア諸国との文化交流に基づく文化財の調査研究を主体とし、九州における文化財の保存・修復のための科学的な調査・研究を推進する。

**○実　　績**

**1)文化財の材質・構造等に関する調査研究**

展示・収蔵品を対象とした科学的調査によって文化財の材質や構造を解明することを目的に、特別展『海の神々』に出品された法隆寺献納宝物海磯鏡の精密三次元計測を実施した。その結果、実物の背後に三次元像を拡大展示することによって文様等を分かりやすく展示することができた。

**2)博物館における文化財保存修復に関する研究（客員研究員）**

別府大学篠崎悠美子教授を客員研究員とし、保存修復施設を利用し、地域の大学との協業を果たすことを目的とした短期インターンシップ研修プログラムを17年度の実績を踏まえ検討、改善した。成果は8月7日から5日間にわたり国宝修理装潢師連盟の協力を受け、別府大学と吉備国際大学及び九州産業大学の学生5名に対して、装潢技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」として開催した。

**3) 文化財専用Ｘ線ＣＴスキャン装置等を利用した九州における文化財の保存と活用のための基盤調査**

文化財専用Ｘ線ＣＴスキャン装置を導入して九州圏内を中心とする文化財の健康診断を行った。虫喰い・割れ・修復履歴などの調査と共に構造調査を実施した。その結果、文化交流展示室　鷹島沖元寇関連遺物「てつはう」の構造に新知見を得た。また、特別展『海の神々』媽祖侍女像をはじめとする木彫像の状態把握と構造調査を実施し、保存状態を詳細に記録することができた。

多数の測定データを基に、保存科学、考古学、美術工芸等の専門家が構造、劣化状況や修復履歴などについて議論を行い、九州における文化財の保存と活用のための基盤調査を開始した。

**4) 彩色水浸文物の保存科学的研究　―中国江蘇省泗水王陵出土文物の保存―（科学研究費補助金）**

中国江蘇省の泗水王陵から発見された水浸出土木製品の保存処理協力を通して、南京博物院との連携を図ることを目的に研究を実施した。18年度は南京博物院龚良院長の福岡県知事（江蘇省と福岡県は姉妹関係）への訪問（6月21日）および研究成果の講演会（6月22日）を実施した。

**5)室町時代の中国文物の受容に関する調査研究（科学研究費補助金）**

室町時代の中国文物に対する認識の基盤を解明しようとする本調査研究では、当時の中国文物受容の枠組みを規定した足利将軍家の評価・意義付けを主要な課題として文献資料、現存する中国美術・工芸等の観点から考察した。

**6)弥生時代後期～古墳時代の墳墓大量出土ベンガラについての基礎的研究（科学研究費補助金）**

18年度は九州各県の教育委員会を訪問し、該当する資料の提供を受けた。提供を受けた資料は順次分析調査を行い、データベース化した。19年度は近畿・東海地方まで調査地を広げる予定である。

**7)日本近世宗門改制度に関する基礎的研究（科学研究費補助金）**

近世日本における宗門改制度の意味と役割について、近世を通じて、全国でほぼすべての人々が共通に経験した唯一の制度といえる宗門改制度が、幕藩体制の中でどのような意義を持つか分析するものである。

**8)高麗経の形態および材料・製作技法に関する研究**

日本及び韓国に所在する金銀字の高麗写経を調査し、料紙、染色等の材料と製作技法について調査研究を行った。また、調査結果に基づいて伝統的韓紙製作技法により高麗写経を模した手漉き韓紙を作製し、伝統染料によって染色を試みた。

なお、この研究はポーラ財団の助成を受け実施できたものである。

**9)日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究**

韓国の扶余国立博物館(5月12日)・公州国立博物館(5月13日)の２館、中国の南京博物院(3月14日)との学術文化協定を締結し、海外博物館との国際交流に向けて着手した。

**○自己点検評価**

【良かった点、特色ある点】

・Ｘ線ＣＴスキャナ装置や精密三次元計測装置等最新の博物館科学機器類の稼働開始により、九州における文化財の保存・修復のための科学的な調査・研究を推進する上での基礎情報を得ることができた。また、博物館科学の最新設備を紹介するパンフレットを作成して配布した。

・文化財の科学的調査研究について、科学研究費補助金等 3 件の外部資金による計画を開始することができた。

・特に、18 年度から 3 年計画で科学研究費補助金（基盤研究（Ｂ））の助成を得て彩色水浸文物文化財に関する保存技術の日中共同研究を開始し、南京博物院の展示交流に向けた友好関係を進展させることができた。

【見直し又は改善を要する点】

・九州における文化財保存・活用のための本格的な基盤調査を実施するためには、外部資金の獲得が不可欠である。

・今後は外部資金の獲得に向けて努力する一方、各県・市町村とのネットワークの構築を強化する必要がある。

調査研究テーマ一覧（事業実績統計表９５～９６頁）
科学研究費補助金による調査研究（事業実績統計表９７頁）
客員研究員一覧（事業実績統計表９８頁）

## 2. 文化財を活用した日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の国内外への発信

### (1)展示の充実

### ①平常展

**○方　　針**

平常展では、国立博物館３館はもとより、国内外の博物館・美術館からの協力を得ながら、「日本文化の形成をアジア史的観点から捉える」というコンセプトに従い、日本が古くからアジアとの交流を通して文化を育んできた歴史を持つ国であることを、日本の中に限らずアジアの中に位置づけて理解できるよう紹介する。

**○実　　績**

総入館者数 1,193,420人（平常展 501,540人　特別展691,880人）

1）開催期間　　平成18年4月1日～平成19年3月31日（316日間）

2）会場　　九州国立博物館　文化交流展室　4階

3）陳列品総件数　2,044件（うち国宝 5件、重要文化財 47件）

4）陳列替回数　299回

5）入場料金　　一般420円（210円）、大・高生130円（70円）、中・小学生 無料　　＊（　）内は、団体

6）展示テーマ、展示の特色

・当館の文化交流展(平常展)は、日本の文化交流を重視する観点から計画的に文化財の陳列を行い、広報と連動して来館者へのきめ細かな展示情報の提供を行った。

・Ⅰテーマ「縄文人、海へ」、Ⅱテーマ「稲づくりから国づくり」、Ⅲテーマ「遣唐使の時代」、Ⅳテーマ「アジアの海は日々これ交易」、Ⅴテーマ「丸くなった地球、近づく西洋」及び「金子量重記念室」、「装飾古墳バーチャルシアター」、といった展示テーマを核に展示した。

・開館時から進めているギャラリートークを実施した。

・文化交流展（平常展）の展示室マップに鑑賞マナーを記載し、鑑賞環境の向上を図った。

４F文化交流展示室案内（表）

４F文化交流展示室案内（裏）

7）広報

① 特集陳列にあたり、地元新聞、雑誌等と共同して、来館者により楽しんでいただける企画を開催した。

② 文化交流展（平常展）の展示室マップを更新し、映像展示についても紹介した。

③季刊「アジアージュ」で、文化交流展示の陳列品を中心に紹介する記事を連載した(現在も継続中)。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

・当館の特徴である、国宝・重要文化財を含む多数の優れた文化財による展示、特定の動線を持たない、体験的な展示を多数盛り込んでいる、露出展示品と観覧者の距離が大変近い、といった当館文化交流展の特徴についても、理解が浸透し、好評を得ることができた。

・関連展示室内装飾古墳バーチャルシアターで新作映像を公開した。

・299 回の陳列替を行い、いつでも新鮮な展示を提供すると同時に、「寧波と日中の文化交流」（平成 18 年 12 月 11 日～平成 19 年 1 月 28 日）、「金銀錯嵌珠龍文鉄鏡･金錯鉄帯鉤」（平成 19 年 1 月 1 日～1 月 28 日）などを中心とした６回の特集陳列を実施。

・「実際に手に触れる、香りを楽しむ」コーナーが大変好評を博しており、老若男女および視覚に障害を持つ方々にも楽しめるようなユニバーサルミュージアムの実現を目指した。

・シアター4000 の上映について、整理券を事前配布して混雑を解消することができた。

**【見直しまたは改善を要する点】**

・当館の個性である展示特徴に対して反対に、室内が暗い、動線が分からない、また題せんの文字が小さい、展示の高さが低いといった意見も寄せられている。こうした問題についてはすでに、ライトの増設、展示室内マップを作成・配布といった形で極力対応しているが、博物館展示本来の楽しみ方も提供しつつ、継続的な課題として今後も検討を続ける必要がある。

・遣唐使船積荷模型の体験コーナーが、開館当初以来、大好評につき非常に混雑しているため、来館者の案内誘導について工夫を継続する必要がある。

入館者数・入場料収入（事業実績統計表Ｐ１００～１０２）

展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置（事業実績統計表Ｐ１０３）

平常展（事業実績統計表Ｐ１２３）

## ②　特別展

**○方　　針**

日本文化がアジアとの交流で形成されたというコンセプトに基づき、日常の調査研究を反映した５つの特別展を企画・開催して、来館者にとって魅力的な文化財の公開を継続的に行った。

**○実　　績**

特別展総入館者数　691,880人（目標　19万人）

「うるま ちゅら島 琉球」・「南の貝のものがたり」・「発掘された日本列島2006」・「海の神々−ささげられた宝物−」・「プライスコレクション 若冲と江戸絵画」の５つの特別展を実施し、それぞれ目標を上回る来館者を迎えることが出来た。また、各特別展に伴う図録を作成・刊行した。さらに、１階エントランスおよびミュージアムホールでのイベントと連携することで、来館者の動員を図ることができた。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

日本文化の形成をアジア史的観点から捉えるという、当館のコンセプトに合致した５つの特別展を開催し、多数の来館者から好評を博することができた。また、エントランスなどでのイベントと連携することで、展示を楽しく分かりやすいものとすることができた。また、「プライスコレクション 若冲と江戸絵画」の際には来館者が集中して混雑したものの、「美の国　日本」の経験を生かして来館者誘導およびサインを工夫し、適切に対処することができた。なお、夏期休暇中に実施した「南の貝のものがたり」では子供を対象とした展示・ワークショップを実施し、来館者数の落ち込みがちな夏場に５万人を越える入場者があったことは特筆されよう。

入館者数・入場料収入（事業実績統計表Ｐ１００～１０２）

特別展（事業実績統計表Ｐ１２３～１２４）

## 「うるま ちゅら島 琉球」

### ○方針

琉球王国は自らを「万国津梁（世界の架け橋）」と例えたように、東アジア世界の中にあって、海を舞台に繰り広げられた多彩かつ多様な交流の歴史を持っている。この特別展では、広くアジアとの交流の歴史を持つ琉球文化を、アジア史的視点から重要な位置をしめるものとして総合的に紹介した。同時に、今世紀初の大規模な展覧会として本土では普段目にすることの少ない代表的な文化財を一堂に集めた。会期中には、琉球文化とそれを育んできた風土と人々の魅力を観覧者の皆様に感じていただくために、たくさんのイベント、ワークショップなどを行った。

1）開会期間　4 月 29 日～ 6 月 25 日　51 日間
2）会場　九州国立博物館　特別展示室　３階
3）主催　九州国立博物館　ＮＨＫ福岡放送局
　ＮＨＫ九州メディス　西日本新聞社
4）陳列品総件数　150件
5）入館者数　177,478人（目標　５万人）
6）料金
　一般1,200円（1,000円）
　高大生　900円（　700円）
　小中生　500円（　300円）
7）担当　原田あゆみ（企画課）ほか２人
9）アンケート　未実施

### 展覧会の内容

本展覧会の展示は大きく二つのゾーンに分かれる。一つは特別展示室の美術品、歴史資料展示。展示室は、ティーダ　（「琉球の太陽」）、海（「海上の道」）、花々（「花開く琉球文化」）、人々（「シマの人々と生活」）の四部構成から成り立ち、琉球王朝の美術・歴史や信仰が、東アジアの激動の歴史の中で形成されつづけてきたことを、総件数 146 件の優れた美術品と歴史資料をとおして紹介した。今、一つはエントランスホールから三階特別展室前までの導入ゾーンで主に沖縄の祭事・行事を紹介した。

### ○自己点検評価

**【良かった点、特色ある点】**

・普段はなかなか目にすることができない、琉球王朝の美術品が一堂に会することで、マスコミも大きく取り上げ、来館者の増加に貢献した。
・特別展がエントランスでの、琉球大綱などのイベントと密接に連携する形を作り上げたことで、その後の特別展・ワークショップのあり方のモデルとなった。

## 「南の貝のものがたり」・「発掘された日本列島 2006 」

### ○方針

「南の貝のものがたり」では、南の貝の持つ美しさや神秘性、弥生・古墳時代の権力者が権威の象徴として好んだゴホウラやイモガイ製の腕輪、そして古代から近世にかけて妖しくも美しい輝きを放つヤコウガイとその螺鈿製品などを通じ、南の貝と日本の文化や社会との関係について迫る。また、会期中は夏休み期間でもあることから、子供たちが楽しめるワークショップを開催した。また、併催の「発掘された日本列島 2006」では、日本全国の最新の発掘調査の成果を披露した。

1）開会期間　７月 29 日～９月３日　37 日間
2）会場　九州国立博物館　特別展示室　３階
3）主催　九州国立博物館、朝日新聞社
4）陳列品総件　87件（「南の貝のものがたり」）
5）入館者数　63,560人（目標　３万人）
6）入場料金
　一般1,000円（800円）
　高大生　700円（500円）
　小中生　400円（200円）
7）担当　宮地聡一郎（展示課）ほか２人
8）アンケート結果　満足度 69%

**展覧会の内容**

この特別展は、「美しき南の貝」、「王者のよそおい」、「貝が彩る古墳世界」、「深海のきらめき」、「新たな輝きをもとめて」の五部構成で、縄文時代から近世に到る貝にまつわる考古資料、螺鈿工芸品などによって、南の貝と日本の文化や社会との歴史をあとづける。加えて、１階エントランスでヤコウガイを使用したストラップを製作するワークショップを実施し、来館者に好評を得ることができた。また、この展覧会に併せて、「発掘された日本列島 2006」を開催し、さらに特設コーナーとしての「九州の御宝-新指定文化財考古資料-」も設けた。

### ○自己点検評価

**【良かった点、特色ある点】**

・夏季休暇期間中に、子供を対象とした特別展を開催したことで、太宰府への来訪者が伸び悩む夏場に５万人を越える来館者を達成でき、幅広い客層の開拓に成功した。
・夏季休暇期間中の来館者動向を調査し、今後の計画に供するため、同期間の月曜日を開館した。
・ヤコウガイからストラップを作る貝磨きワークショップを開催し、期間終了につれて大きな反響を呼ぶことが出来た。

**【見直しまたは改善を要する点】**

・ヤコウガイからストラップを作る貝磨きワークショップでは、参加者が予想外に多い日には、混乱が生じた。

## 「海の神々―ささげられた宝物―」

### ○方針

日本は四方を海に囲まれた海国であり、古来から人々は海に対して崇敬と畏怖の念を抱いてきた。海は大漁という恵みをもたらすと同時に、難破など災いをもたらす存在でもあった。とりわけ漁師や航海者にとって、果てしない広さと底知れぬ深さを秘めた海は、人智を超えた神々の領域と考えられてきた。この展覧会は、海の神々に捧げられた宝物を一堂に集めたはじめての試みであり、人々が海神によせてきた想いを探るものとなった。

1）開会期間　10月８日～11月26日　43日間
2）会場　九州国立博物館　特別展示室　３階
3）主催　九州国立博物館・ＲＫＢ毎日放送・
　　毎日新聞社
4）陳列品総件数　158件
5）入館者数　139,981人（目標　６万人）
6）入場料金
　一般　1,300円（1,100円）
　高大生1,000円（800円）
　小中生　　600円（400円）
7）担当　赤司善彦（展示課）ほか１人
8）アンケート結果　満足度70.1%

### 展覧会の内容

展覧会は、「海から生まれた神」、「海上の守り神」、「海神の伝説」、「外来の神」、「海の彼方のユートピア」の五部構成。祭神への奉安物、または式年遷宮や祭礼に際して祭神への御料として代替えされた神宝類を中心とし、また平安時代以降に有力者によって奉納された武具や工芸品、絵画あるいは和歌などの多彩な宝物、さらには舞楽などの伎芸に関わる品々を展示した。初公開される神宝類や神像をはじめ、公開した文化財は、神道美術の精華としてその文化を伝えるだけでなく、海の神々への篤い信仰を物語っている。

### ○自己点検評価

**【良かった点、特色ある点】**

・海の神々にテーマを当てた初めての特別展であり、考古・工芸・彫刻・絵画・書跡の多彩な分野にわたる文化財を展示することができ、開館１周年記念に相応しい特別展とすることが出来た。
・マスコミにも多く取り上げられ、来館者の動員に寄与した。
・図録が「重い」「厚い」との来館者からの声に対応して、試みとして、従来の図録とは異なる、分かり易さを重視した小型版とした。

## 「プライスコレクション 若冲と江戸絵画」

### ○方針

アメリカ・カリフォルニア州のエツコ＆ジョー・プライスコレクションは、魅力に満ちた江戸絵画の収集で世界的に知られており、伊藤若冲や長沢芦雪の作品などに注目してこの分野の新たな価値を発見したことでも高く評価されている。

本特別展はコレクションの収集 50 年を記念して開催するもので、江戸絵画の豊かな色彩、明確な形態感覚、細やかな描写を鑑賞する絶好の機会を来館者に提供した。

1) 開催期間　19年1月1日～3月11日　62日間
2) 会場　九州国立博物館　特別展室　３階、
　　同　　文化交流展室　４階
3) 主催　九州国立博物館、日本経済新聞社、西日本新聞社、ＴＶＱテレビ九州
4) 陳列品総件数　109件
5) 入館者数　300,171人（目標　５万人）
6) 入場料
　一　般 1,300円（1,100円）
　高大生 1,000円（800円）
　中学生以下　無料
7) 担当　畑靖紀（企画課）ほか１人
8) アンケート結果　未実施

**展覧会の内容**

プライスコレクションの約 600 件の絵画から 109 件の優品を選び、「正統派絵画」「京の画家」「エキセントリック」「江戸の画家」「江戸琳派」の五部構成で展示した。このうち伊藤若冲の絵画を最も重要な作品と位置付け、その 17 件を「エキセントリック」に中心的に展示した。加えて特に「京の画家」では長沢芦雪に、「江戸琳派」では酒井抱一、鈴木其一に焦点をあて会場を構成した。

### ○自己点検評価

**【良かった点、特色ある点】**

・伊藤若冲を中心とする江戸時代・十八世紀の絵画作品を本格的に紹介する九州では初めての機会として来館者の好評を得た。「光の演出」などの新しい展示方法を模索することによって、従来の特別展に比較して二十代、三十代を中心とする年代の来場者が多く、新たな来館者層の開拓に成功したことは特筆される。

・三階「特別展室」に加え四階「文化交流展室」の一部も会場とすることで、来館者の多い文化交流(平常展)室でも出陳作品をお楽しみいただき両者の連携を図ることができた。

・福岡市動物園・マリンワールドなど近隣機関の協力を得て動物剥製標本を一階エントランスホールに展示し「きゅーはく動物園」を開催するなど、教育普及プログラムを三つの内容で展開した。特に無料来館者ゾーンにおいて自由に参加できる関連企画は来館者の好評を得た。

・ＨＰ上に来場者が書いた個人ブログのリンク集「ぶろぐるぽ」を作成し、時流を意識した新たな方法で展覧会情報の発信を試みた。http://www.kyuhaku.com/pr/exhibition/exhibition_blogrepo01.html

## ③　展覧会広報活動の取組み

**○方　　針**

特別展をはじめ博物館活動やイベント事業を地元マスコミ等を通じて幅広く周知を図り、来館者・参加者の確保に努める。

**○実　　績**

1）刊行物

・定期発行の情報誌　4回　春2万部、夏・秋・新春各3万部

　特別展の他、イベントや教育普及などの情報を盛り込んだ博物ニュース「季刊アジアージュ」の作成、配布及びホームページでの公開

2）その他

・報道機関への展示やイベント等に関する積極的かつタイムリーな情報の提供

・地域密着のタウン誌、フリーペーパー（特別展ごと発行）、全国展開の旅行雑誌など各種情報誌への積極的な情報提供

・地元自治体、商工団体、観光団体と一体となった広報活動の展開（特別展ごとのポスターや歓迎バナーの商店街への掲示、月間イベント情報の共同制作、イベントの共催など）

・福岡県の広報媒体を活用した広報活動（テレビ、ラジオの広報番組、新聞広告、定期刊行物）

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

・パブリシティーを積極的に推進するとともに自治体の広報媒体を有効に活用することにより、少ない経費で大きな宣伝効果をあげることができた。

・最寄り駅からのアクセス道路沿いに歓迎バナーやポスターが掲げられ、商店では、前売り券が売られるなど、地元との一体感を創出することができた。

・一階の無料ゾーンを活用し、集客力のあるイベントを開催した結果、博物館の賑わいを演出するとともに展示の観覧者増にも結びつくという相乗効果を得ることができた。

**【見直しまたは改善を要する点】**

・九州外での知名度の向上が課題となるが、博物館単体では広報の効果が限られる。太宰府、九州など面的な広がりを持った広報の中で、有力コンテンツとしてアピールしていく必要がある。

・年度計画における外国語ガイドブックについては、ビジュアルガイド「アジアージュ」を基にして刊行予定であったが、内容や予算的な面から現段階ではまだ検討中で作成までに至っていない。

特別展（事業実績統計表Ｐ１２３～１２４）
広報刊行物（事業実績統計表Ｐ１２７）

## (2)情報発信機能の強化

### ①　ウェブサイト等による情報の発信

**○方　　針**

ウェブサイトのアクセス件数が増加するよう内容の充実を図る。

**○実　　績**

・711万8,540件のアクセスがあった。
・定期的にウェブ編集者を含めた関係者検討会を実施し、常にウェブサイトの内容について検討し改善した。
・博物館に関する多くの情報を、ほぼ毎日更新し提供した。
・オリジナルコンテンツの充実として、「ろじ」に9本の連載、写真レポート及びルポなどを掲載した。
・ウェブ2.0の視点から、クリックアンケートの実施、一般公募ブログで特別展の評価を実施するなど、ホームページ閲覧者の意見を反映した。
・ウェブアクセシビリティの向上に向けて、文字の大きさの変更、デザインを考慮した。

※ ろじ(路知)とは、知識の散歩道を意味し、九博WEBのみのオリジナルコンテンツである。九博のテーマ、九州の地域性に関連した連載よみ物を中心に、インタビュー、アルバムを掲載している。九博外の研究者に執筆を依頼しているが、館内のみでは取り扱うことのできない幅広いテーマ、ジャンルについて寄稿いただいている。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

17 年度に引き続き、700 万件以上のアクセスがあった。情報の更新をほぼ毎日実施するほか、新たなコンテンツの充実を図った。

**【見直しまたは改善を要する点】**

今後も、クリックアンケートなどを通じてホームページ閲覧者からの意見などの吸い上げを図る必要がある。

ウェブサイトのアクセス件数（事業実績統計表Ｐ１２８）

## ②-1　デジタル化の推進

**○方　　針**

収蔵品のデジタルデータを計画的に作成する。

**○実　　績**

新収品（白釉経筒（重要文化財）ほか19件）、寄贈品（紺糸威胴丸具足ほか5件）を中心に1,986件のデジタルデータを作成した。（目標600件）

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

着実に作業が進み作成目標を上回る点数のデジタルデータを作成することができた。

**【見直しまたは改善を要する点】**

将来の収蔵品図版目録や寄贈コレクション図版目録作成を視野に入れた、長期的な計画策定が必要である。

収蔵品のデジタル化件数（事業実績統計表Ｐ１２８）

## ②-2　博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化

**○方　　針**

1)収蔵品・出品作品などの写真撮影および関連データを計画的に整備する。
2)新規の博物館資料（収蔵品、図書、写真など）データを入力、横断的データベースを維持する。業務システムの本格運用に伴い明らかとなった問題点について検討し、必要に応じて改修を行う。

**○実　　績**

1)撮影件数　287枚
2)新規の収蔵品、図書データなど１万4,759件の登録を進め、同時に業務システムの本格運用に伴い業務との効率的な連携、要望、不具合などについて検討し、改修などを実施した。
3)海外調査等で撮影したビデオや画像等を教育普及事業で活用するための整備を行い、当館の「あじっぱ」内の「あじ庵」と「たなだ」において、モニター等を使用し、各国の生活文化を伝えるＶＴＲ等の放映を行った。
（ＶＴＲ等を放映している国名：中国、韓国、タイ、インドネシア、ポルトガル）

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**
・約１万5,000件にのぼるデジタルデータの登録を行うとともに、不具合などについて改修を実施した。
・「あじっぱ」で展示しているものに関連するＶＴＲ等を放映したり、実際に手で触れてもらうことで、異国文化の理解に有効となっている。

**【見直しまたは改善を要する点】**
・常勤のカメラマンがいないため、実際には撮影事業計画の調整に困難が伴った。今後は、よりスムーズな事業計画策定が必要である。また業務システムの安定的運用に向けて、今後とも継続して不具合などの洗い出しが必要である。
・「あじっぱ」で教育普及事業として活用している海外調査での画像やビデオ等を、更に追加して充実させていきたい。

情報資料の収集（事業実績統計表Ｐ１２８）
特別観覧件数（事業実績統計表Ｐ１２９）

## (3) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進

### ①学習機会の提供

**○方　　針**

日本の歴史・伝統文化及び東洋文化を分かりやすく理解するため、様々な関係機関、団体等と連携協力しながら幅広い教育普及事業を行う。

**○実　　績**

1) 博物館における体験型事業の充実

・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットの開発

例：ボックスキット「タイへようこそ」「粘土の菓子型」、「紅型の貼り絵」「バティックの貼り絵・塗り絵」

・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供する。

例：夏休みにエントランスでヤコウガイ磨きのワークショップを実施

・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

例：「あじっぱ」の一角、「あじ庵」におけるインドネシアの影絵芝居「ワヤン・クリ」及びインドネシアのろうけつ染め「バティック」の貼り絵・塗り絵

・博物館科学施設等において、博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

短期インターンシップ「文化財保存修復研修」の実施（8月7日～11日）

大学生5名（別府大学2名、吉備国際大学2名、九州産業大学1名に対して文化財修復（装潢技術）の基本的な研修を実施した。

2) 学校教育との連携事業の実施

・「若冲と江戸絵画展」教員対象内覧会の実施

・博物館利用の促進を図るため、教員研修の場の設置

例：福岡県立高等学校普通教科担当教員長期社会体験派遣研修、福岡県教育センター専門研修、福岡県高等学校歴史研究会研修、八幡東西区社会科研究会研修、福岡教育連盟福岡・筑後地区青年部宿泊研修会、福岡県高等学校芸術・文化連盟学校担当者研修会、福岡県高等学校事務職員協会福岡地区南・西ブロック合同研修会

・大学との連携

例：

(8月7日～18日) 大学生11名受入（九州産業大学3名、筑紫女学園大学1名、福岡大学1名、福岡女学院大学1名、大分大学2名、広島大学1名、学習院大学1名、多摩美術大学1名）

(9月4日～15日) 大学生8名受入（九州産業大学2名、佐賀大学2名、琉球大学1名、鹿児島国際大学1名、活水女子大学1名、福岡女子短期大学1名）

例：筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップの定期的な開催、福岡教育大学との連携による教育普及キットの開発

・高校との連携

例：ジュニア学芸員事業(4校21名)の実施、武蔵台高校レインボープロジェクトとの連携、筑紫高校1年生総合学習、筑紫台高校普通科1年生校外研修、筑陽学園高校普通科2年生博物館研修

・中学校との連携

例：中学生の職場体験学習（高取中学校2名、香椎第一中学校3名、太

宰府東中学校1名、大野中学校10名、二日市中学校5名）

・放送大学の面接授業の実施

期間　７月８日、９日　担当した研究員　５人、参加者数　５０人

3)講演会・講座等の実施

・特別展記念講演会　12回（参加者数総数　2,153人、当館の担当研究員数　4人/4回）

・特別展「うるま ちゅら島 琉球」館外出前ミュージアム講座　６回

（参加者数総数　714人、担当研究員数　5人）

・教育講座シリーズ・アジアージュ（対談）　４回（参加者数総数　541人、担当研究員数　6人）

・ミュージアム講座（番外編）　１回（参加者数総数　145人、担当研究員数　2人）

・ミュージアムトーク　47回（参加者数総数　1,806人、担当研究員数　22人）

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

・ヤコウガイ磨きのワークショップはエントランスで実施したため、特別展のＰＲになり、また多くの来館者に体験してもらったことで、当館の教育普及活動に大きく貢献した。また、関係者からの視察も多かった。

・ガムランワークショップの定期的な開催により、「地域に開かれた博物館」「学生の学習成果の発表」という、当初の目標が達成された。

・ジュニア学芸員事業は、学芸員による演習形式の研修を取り入れることで、高校生に博物館を理解してもらうだけでなく、進路選択や人との接し方を学ぶよい機会になった。

・講演会やミュージアム講座(アジアージュ)等を開催することによって、来館者に展示をより深く楽しんでもらうことができた。

**【見直しまたは改善を要する点】**

・ヤコウガイ磨きのワークショップは、人気があった分混乱も大きく、最後の数日はクレーム対応に追われた。広報活動の見直しと、迅速かつ柔軟な対応の重要性を痛感した。

・博物館実習の募集の時期が遅かったために、一部の大学からの申し込みしかなかった。次年度は募集時期を早くすることで、多くの学生の参加を募りたい。また、館内においても各課で実習内容についての情報交換がスムーズにできるように対策を立てたい。

・地域や県の教育委員会と協力して、小学校・中学校・高等学校の授業で使用できるようなガイドブックの作成を行う必要性を強く感じている。

・展示やイベントだけではなく、博物館利用のルール・マナーを含めた、教員向けの広報活動を行うことが必要である。

・家族向けの平常展を利用したＰＤＡ（携帯情報端末）によるプログラムの開発については、文化交流展示室の一部において施行に向けてテストしているが、導入するためには先進事例の調査、情報収集を更に進め、当館にふさわしいシステム作りを検討していきたい。

学習機会の提供（事業実績統計表Ｐ１３１）

児童生徒を対象とした教育普及事業（事業実績統計表Ｐ１３３～１３５）

大学等との連携（事業実績統計表Ｐ１３６～１３９）

講座・講演会等の開催実績（事業実績統計表Ｐ１４６～１４７）

ギャラリートーク実施状況（事業実績統計表Ｐ１４８～１５１）

## ②-1　ボランティア活動の支援

**○方　　針**

館における生涯学習活動としてボランティア活動の支援充実を図る。
展示解説、教育普及、館内案内、外国語通訳、ＩＰＭ（総合的有害生物管理）及びイベントのボランティア活動を支援するための研修やグループ別学習を実施する。

**○実　　績**

・展示解説ボランティア　54人
　文化交流展室で解説。研究員が担当するミュージアムトークも連携して実施している。
・教育普及ボランティア　72人
　「あじっぱ」で来館者への対応。
・館内案内ボランティア　34人
　館内案内及びバックヤードの案内。
・外国語通訳ボランティア　48人
　英語・韓国語・中国語で、館内及びバックヤードの案内。
・環境ボランティア　28人
　ＩＰＭ活動に関する支援。
・イベントボランティア　14人
　正月イベント等の企画・立案・実施。
・学生ボランティア　43人
　春・夏休みのイベント企画・立案・実施。

・ボランティアに対する基礎研修・専門研修の実施
　① 全体研修(7回)の実施
　② 専門研修(120回)の実施

・ボランティア同士のグループ別学習の充実
　英語部会、中国語部会、日本語部会、展示解説部会で実施。
　（対応来館者数）
　展示解説 10,256 人、館内案内 17,486 人、バックヤードツアー 2,947 人、手話通訳 528 人

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**
・お客様の表情を見ながら、お客様のニーズにあった館内案内、展示室の案内、バックヤードツアーを実施し、お客様に喜ばれリピーター獲得へとつながった。
・全体研修、専門研修、各部研修を充実したので、ボランティアの資質向上につながった。

**【見直しまたは改善を要する点】**
・展示解説部会、日本語部会、環境部会は、自主的な活動を展開している。この自主的な活動が全ての部会でも展開されるように支援していく。

ボランティア受入実績（事業実績統計表Ｐ１５２～１５５）

## ②-2　博物館支援者の増加

**○方　　針**

「友の会」「パスポート」の会員制度を定着させ周知を図る。また、近隣地域事業に積極的に協力する。

**○実　　績**

1)1 階総合案内にて開館中常時受付を行うとともに新規募集に向け広報用のパンフを更新した。

| | 18 年度 | （参考）17 年度 |
|---|---|---|
| 友の会 | 229 人 | 312 人 |
| パスポート | 1,312 人<br>（一般：1,214 人、学生：98 人） | 1,552 人<br>（一般：1,421 人、学生：131 人） |

・活動　「友の会」会員へ博物館の季刊情報誌アジアージュを送付し博物館情報を伝えるとともに継続への勧誘を行った。

2)太宰府市沿線活性化協議会［主催：西日本鉄道］（地元太宰府市の情報交換会）に参画し地域事業の情報を収集するとともに博物館事業を発信した。
この協議会において月別のイベント事業の一覧を作成し広報を行った。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

協議会に参画したことにより太宰府市役所や太宰府天満宮などとの連携が密になり事業がやり易くなった。

**【見直しまたは改善を要する点】**

・開館の祝賀ムードも落ち着き 17 年度の友の会の入会者数を維持できなかった。特典である特別展の無料観覧について共催者との理解を得ながら新規会員の開拓、継続会員の増に努めたい。

・年度計画において予定していた賛助会制度の設置については、実現には至っていないものの、準備のための検討を行っている。

友の会（事業実績統計表Ｐ１５６）
渉外活動（事業実績統計表Ｐ１６４～１７２）
留学生の日（事業実績統計表Ｐ１７３）

## (4)調査研究成果の反映

**○方　　針**

文化交流展示室における陳列品を中心として、その歴史的背景を深め、来館者にとってより分かりやすい展示を行う。また、収蔵品を核として関連する文化財の収集を進め、多角的な歴史展示を行う。

**○実　　績**

・当館の収蔵品である郷土人形コレクションの、データベース作成に向けて、週１日、ボランティアと共に調査活動(写真撮影・調書作成)を実施し、650枚を越える調書を作成した。
・特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成 － 寧波を焦点とする学際的創生 － 」と連携して、文化交流展示室において寧波の歴史と美術に係る文化財を陳列した。
・展示期間中に国際シンポジウム「寧波の美術から海域交流を考える」(12月16・17日)を開催した。
・九州宝御膳(10月29日～11月5日)に合わせて、「九博の食」と題した特集陳列を実施し、いずれも大きな反響を呼んだ。
・当館の工房内で修復した、重要文化財倶利迦羅竜剣や木造僧形八幡神像などの修理御披露目公開などを行った。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

・特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成 ― 寧波を焦点とする学際的創生－」との連携事業では、展示室における特集陳列と国際学術シンポジウムとを連動させたことで、最先端の研究を展示という形で発信でき、大きな成果を挙げた。

**【見直しまたは改善を要する点】**

調査研究成果の展示への反映は、「生きている博物館」の実践にとって不可欠なものであり、今後も継続して行うが、事前の情報提供を充実することが課題である。

## (5)快適な観覧環境の提供

### ①　観覧環境の整備プログラム等の策定

**○方　　針**

・館内施設の再点検や利用者（健常者、身障者等）の意見をまとめ実態を把握する。
・5カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語）リーフレットを継続して制作する。
・特別展等において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。

**○実　　績**

・各専門家の協力を依頼し、館内施設の再点検等に着手した。
・17年度のリーフレットを改善しリニューアルした上で、7カ国語（日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語）のリーフレットを作成した。

７カ国語のリーフレット

・音声ガイドの使用実績
　文化交流展 9,845台（内訳：英語版 2,517件、中国語版 933件、韓国語版 6,395件）
　特別展　「うるま　ちゅら島　琉球」14,975台
　　「南の貝のものがたり」2,936台
　　（同時開催「発掘された日本列島2006－新発見考古速報展－」）
　　「海の神々－ささげられた宝物－」12,589台
　　プライスコレクション「若冲と江戸絵画」29,207台

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**
・断片的な情報を整理することができた。
・来館者からの要望を取り入れ、リーフレットの改善ができた。
・財団法人東芝国際交流財団から外国語版リーフレット作成のための助成金を頂き翻訳等含め作成することができた。
・７カ国語のリーフレットが作成できたことにより、外国人来館者へのサービスが整ってきた。

**【見直しまたは改善を要する点】**
・館内施設について早急に対応しなければならない事項もあり、集中的に検討を行う。
・文化交流展では、現在、日本語版の音声ガイドは作成していないが、来館者からの作成してほしいとの要望が多くなってきているので、検討する必要がある。

高齢者、身体障害者等に配慮した設備等（事業実績統計表Ｐ１７４）
音声ガイド実施状況（事業実績統計表Ｐ１７５）

## ②　一般来館者の満足度調査及び専門家の批評聴取

**○方　　針**

来館者の直接の意見、電話での意見、館内アンケート（意見箱）、委託事業業務報告書、ホームページへの投稿など各種意見を集約し博物館活動の改善・充実に努める。

**○実　　績**

関係部署に回覧するとともに主要な意見・提言については定期的に意見を取りまとめ館内会議において報告することとした。

意見・要望に基づき次の改善を図った。

・意見箱の設置

・3 階と 4 階に新たに水飲場（冷水器）を設置

・車椅子を自身で動かせない障害者のため電動車椅子を常備

・車椅子の利用範囲（天満宮までの利用）の拡大

また、意見・満足度を総合的にとりまとめたデータ分析（広報課）を行い、データ結果を館内の共通認識とし来館者対策の参考にした。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

・車椅子の利用に関しては、要望者から好評をいただいている。今後とも意見・提言に基づき可能な範囲で改善を図りたい。

**【見直しまたは改善を要する点】**

・当館は、他国立博物館と比較し団体来館者が多いため鑑賞マナーが問題となっている。
満足度を高めるための方策や来館者への協力依頼を求めるなど検討したい。

・開館時間の延長、開館日数増などの要望は、需要数と予算を勘案し実施について検討する。

平成１８年度特別展アンケート結果（事業実績統計表附属資料）

## ③　ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実

**○方　　針**

よりよいサービスが提供できるようミュージアムショップやレストラン運営事業者と連携を図る。

**○実　　績**

・案内表示の設置を増やすなど来館に分かりやすくした。
・特別展会期中に特別展のタイトルに合わせたレストランメニューを提供してもらった。
・特別展図録や前売入場券の販売により来館の便宜を図った。

**○自己点検評価**

**【見直しまたは改善を要する点】**

ミュージアムショップ、レストランの設置形態が館との委託形態ではないため、意思疎通に課題がある。

## 3　我が国における博物館のナショナルセンターとしての機能の強化

### (1)調査研究の成果の発信

**○方　　針**

九州に根ざした国立博物館としての特性を活かした保存修復活動やシンポジウム・セミナーを展開し、ナショナルセンターとしての役割を果たす。

**○実　　績**

・九州圏内の国指定重要文化財や県指定文化財等の修復を九州国立博物館内で行うための環境整備を行い、18 年度には「大分県小武寺所蔵の木造倶利伽羅竜剣」、「大分市美術館蔵の田能村竹田資料」等重文 5 件を含む 14 件 23 点の修理事業を実施し、館として調査、指導に協力するとともに文化財データの蓄積および、修理後の特集陳列による公開を行った。
・アジアとの文化交流を、文化財の保存修復を通して進める事業として保存修復に関わるシンポジウム「東アジア文化財保存サミットを開催した。
・九博、福岡県及び筑紫野市の三者主催による「古文書修復基礎講座」研修を実施し、地域との連携を積極的に推進し、九州圏内の保存修復拠点としての役割を果たした。
・国立博物館法人・福岡県との共同で教育普及に関わる海外の研究者も参加した事例報告、意見交換会を実施した。
・国際シンポジウム「博物館教育の活性化へ向けて」10 月 29 日　ミュージアムホール　参加者 230 名
独立行政法人国立博物館・福岡県との主催で博物館教育に携わる研究者等（イギリス、韓国、シンガポール、台湾、タイ、日本）による講演、報告、討論を実施した。
・国際シンポジウム「漢字文化のひろがり」9 月 17 日　ミュージアムホール　参加者 260 名
日本・韓国出土の木簡を中心に漢字文化の広がりについて研究者等（韓国、日本）による講演、報告、討論を実施した。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**
・保存修復施設の環境整備、博物館科学機器類の整備により、九州圏内における文化財保存修復の拠点としての役割を果たす体制の基礎が形成された。
・地域との連携を積極的に推進するなかで、九州圏内の文化財保存修復についてのリーダーシップを発揮することができた。
・独立行政法人国立博物館と福岡県の主催によるシンポジウムを開催することで、相互の連携が深まった。

**【見直しまたは改善を要する点】**
・来年度は、東アジアの紙文化財保存修復に関する日中韓三国のシンポジウムを開催し、文化財保存修復を通して実践するアジアとの交流や貢献をより積極的に推進する。
・国際シンポジウム開催内容や時期等を事前に十分検討しておく必要がある。

学会等発表実績一覧（事業実績統計表Ｐ１９１～１９２）
論文等発表実績一覧（事業実績統計表Ｐ２０１～２０２）
調査研究刊行物一覧（事業実績統計表Ｐ２０４）
シンポジウム開催実績一覧（事業実績統計表Ｐ２０６）

## (2)海外研究者の招聘

**○方　　針**

1)海外の博物館・美術館等との研究者の招へい及び当館職員の海外博物館等への派遣を通して、海外博物館等との学術交流の推進に努める。
2)国際シンポジウムを開催し、調査研究の充実を図る。

**○実　　績**

1)研究交流の推進
・海外研究者の招へい　17人（目標1人程度）（当館招へい12人、文化庁招へい事業5人）
・海外への研究員派遣　32人（目標1人程度）
・文化庁主催のアジア諸国博物館・美術館研究協力事業により、中国文物研究所、韓国国立扶餘博物館、韓国国立公州博物館、ベトナム考古学院の研究員を招へいした。
・韓国国立扶餘博物館、韓国国立公州博物館と学術文化交流協定を締結した。
・南京博物院との学術文化交流協定締結に向けた事前協議のため、南京博物院長を招へいし、その後締結した。
・文部科学省学芸員等在外派遣研修により、学芸部博物館科学課保存修復室長をイギリスへ派遣した。
2)国際シンポジウムの開催
・「漢字文化のひろがりー日本・韓国出土の木簡を中心にー」（9月17日）
・「東アジア文化財保存サミット」（9月30日）
・「寧波の美術から海域交流を考える」（12月16日～17日）

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**
1)文化庁招へい事業により5名受け入れたほか、学術文化交流協定を締結する等、海外博物館等の学術交流を推進することができた。
2)3回の国際シンポジウムの開催により、専門的な意見交換を行い、調査研究の充実を図ることができた。
**【見直しまたは改善を要する点】**
外国人研究者招へいについて、今後とも外部資金等も活用して、計画的に進めたい。

研究交流実績（事業実績統計表Ｐ１７６～１８８）

## (3)保存修理者への研修プログラム

**○方　　針**

1)保存修理技術者と研究員が一体的な調査研究活動に取り組み研鑽を深める。
2)博物館・美術館関係者や修理技術関係者等を対象とした研修やシンポジウムを実施する。
3)地域の博物館・美術館、文化財関連機関や団体が文化財保存修理に関する研修を開催する際に、積極的に会場提供を行い併せて当館研究員を講師として派遣する。

**○実　　績**

1)・常時、当館の研究員の指導を得ることができるので、迅速かつ的確な修練を積み修理に活かすことができた。
・手術用顕微鏡や蛍光X線分析装置等の科学的機器を駆使した調査や処置を的確かつ安全に行うことができた。
2)・東アジア地域で文化財保存のために活動している学会の中心人物によるシンポジウム「東アジア文化財保存サミット」を開催し彼我の博物館・美術館、文化財保存修理関係者の相互理解と研鑽を深めた。
・地元の県や市の教育委員会と連携し、古文書修復に関する基礎講座を開催した。
3)　福岡県博物館協議会が当館研修室及び保存修復施設を会場として「有形文化財の修理について」を開催。博物館科学課長、保存修復室長を講師として派遣し、地域の博物館・美術館、文化財関係者への研修に努めた。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

当館施設の機能や利点を活かした個別研修や地域の文化財保存関係者への専門的研修ができた。

**【見直し又は改善を要する点】**

当館保存修復施設の充実に伴い常駐の修理技術者数も増加し、全体研修プログラムが必要となってきたので、早急に取り組む必要がある。

地域の文化財保存関係者の知識と技術研鑽のためには、中長期的なプログラムを検討・実施する必要がある。

## (4) 収蔵品の貸与

**○方　　針**

特別展・文化交流展示にあたって、国内外の諸機関から多大なる協力をえているところから、国内外の博物館・美術館などの展覧会に可能な範囲で協力をする。

**○実　　績**

貸与件数　116件
うち海外への貸与件数　１件

「雪舟への旅」展　（「四季山水図」3幅　11月1～30日、山口県立美術館）
「ローマを夢見た美少年　天正遣欧使節と天草四郎」展　（「南蛮船駿河湾来航図屏風」一双　10月21日～12月13日、長崎県歴史文化博物館）等

海外への列品貸与　１件（平成19年3月5日～9月上旬　フィラデルフィア美術館）

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**

当館が 17 年度購入した雪舟筆「四季山水図」の成立を考えるのにきわめて重要な明代「四季山水図」(4 幅のうち 3 幅のみ現存）を、山口県立美術館が開催した雪舟の展覧会に貸与できた。また我が国キリシタン信仰に焦点をあてた長崎県歴史文化博物館が開催した展覧会に、南蛮船を描く「南蛮船駿河来航図屏風」を貸与できた。

**【見直しまたは改善を要する点】**

今後も、国内外の博物館美術館における展覧会に協力できるよう、収蔵品の質と量を高めていく必要がある。

国内の博物館・美術館等への収蔵品貸与件数（事業実績統計表Ｐ２０７）
海外への列品貸与（事業実績統計表Ｐ２０９）

## (5)公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進

**○方　　針**

・公私立博物館・美術館等に対する援助、助言を推進する。
・博物館関係者、修理技術関係者の各種研究会に協力する。

**○実　　績**

公私立博物館・美術館等に対する援助・助言　　57件
博物館や教育委員会等で開催される研究会・講演会の講師や指導助言を行った。
・18年度「博物館学集中コース」に係る見学研修の講師（国立民族学博物館）
・保存科学の実践に関する国際シンポジウムの講師（東京国立博物館）
・「生きている博物館への案内」における講師（日田市教育委員会）
・「上野の森美術館大賞展」美術講演の講師（上野の森美術館）
・宮原遺跡出土箱式石棺の調査における指導（香春町教育委員会）
・寄贈予定作品のアジア民族造形に係る指導（アジア民族造形館）
・発掘調査に係る現地指導（兵庫県教育委員会）

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**
各種機関から要望があった各種講師や指導助言等に対し、積極的に協力を行うことで各機関とのつながりが広がっている。
また、当館を会場として開催することも多く、当館のＰＲにもなっている。

公私立博物館・美術館等に対する援助・助言（事業実績統計表Ｐ２１１～２１７）

## Ⅱ　業務の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

**○方　　針**

1. 業務の効率化
  1) 省エネルギー、リサイクルの推進
  2) 施設利用の推進
  3) 民間委託の推進
  4) 一般競争入札の推進
2. 事業評価の実施及び職員の意識改革
  1) 評議員会等の開催と事務・事業等への反映
  2) 研修、講演会の実施
3. 情報システム（職員ポータル、業務システム）の安全管理、セキュリティ対策を強化する。

**○実　　績**

1　業務の効率化

1)　省エネルギー、リサイクルの推進

水道は上水と雨水利用の併用を行い、空調設備は蓄熱層、アースチューブによる床冷暖房との併用、照明については、人の有無により照度を自動調節する機器を採用し、電気は電力契約と太陽光発電を併用するなど省エネルギーに努めている。

電気　　（単位：kwh）

| １７年度 | １８年度 |
|---|---|
| 9,974,304 | **9,487,836** |

前年度比　95.1%

水道　　（単位：㎥）

| １７年度 | １８年度 |
|---|---|
| 42,782 | **40,632** |

前年度比　95.0%

紙　　（単位：kg）

| １７年度 | １８年度 |
|---|---|
| 1,575 | **2,941** |

前年度比　186.7%

当館は、平成１７年度１０月に開館を迎え、１８年度は通年になったことと運営スタッフの増加によりその使用量は増加している。また、ミュージアム講座や各種講演会が活発に行われるようになり、その資料作成やイベント案内のチラシを館内作成で行ったため、大幅に増加することとなったが、今後は１８年度を基準に推移していくと思われる。

廃棄物（一般）　　（単位：kg）

| １７年度 | １８年度 |
|---|---|
| 42,000 | **34,320** |

前年度比　81.7%

廃棄物（産廃）　　（単位：kg）

| １７年度 | １８年度 |
|---|---|
| 10,000 | **2,000** |

前年度比　20.0%

2) 施設利用の推進　　ミュージアムホールの利用　146件(内有料 20件)
　　研修室の利用　113件(内有料68件)

3) 民間委託の推進
施設の運転・管理業務、展覧会の運営業務、警備業務、清掃業務、展示室の管理業務、文化財の輸送業務、図書室業務、ホームページの管理・コンテンツ制作業務、電話案内業務等を民間委託で行っている。

4) 一般競争入札の推進
特別な事情がない限り、一般競争入札・見積もり合わせを行っている。（一般競争入札9件実施）

2.事業評価の実施及び職員の意識改革
1) 評議員会等の開催と事務・事業等への反映
評議員会　2回、連絡協議会　13回、運営会議　7回

2) 研修、講演会
・ＡＥＤ（自動体外式除細動器）を各階に設置するとともに、職員、ボランティア職員、派遣職員等が必要時に使用できるよう講習会を開催した。（平成18年4月24日）
・博物館業務の理解を深めるため、保存修復の現場での研修を実施した。（平成18年9月5日）
・科学研究費補助金の申請に関する説明会（平成18年10月12日）
・職員、ボランティア職員、派遣職員等が太宰府消防署と連携し、初期消火や避難誘導等の防災訓練を実施した。（平成19年2月5日）

3.情報システムの安全管理については、福岡県、独立行政法人の担当者、保守業者による定例会を毎月開催し、福岡県と共同でセキュリティ対策の一部、アクセスログ監視部分を強化した。

**○自己点検評価**

**【良かった点、特色ある点】**
・一般競争入札を推進することにより、経費の効率化が図れた。
・イベント等による施設利用が計画的・効率的に実施できた。
・福岡県・保守業者などと安全管理体制改善について、毎月会議を実施し、連絡を密にするとともに迅速に対応した。
・科学研究費補助金の申請を行うにあたり、研究員の意識高揚と具体的な研究計画の策定に関する研修を行い、質の高い研究プロジェクト立案に努めた。

**【見直しまたは改善を要する点】**
安全管理体制について、独法内外の機関とも連携を深める必要がある。